

2号連続特集

ピアノのためのQ&A ②

PART 1 レッスン教室編
 ◇秋末直志、杉浦日出夫、片山早苗、奥浦博子 50

PART 2 アルバム紹介編 ◇渡辺 泉 64

PART 3 ピアノ連弾編 ◇斉藤デュオ 70

コラム ◇原 明美 56、63、69

カラー

ステージ **イーヴォ・ポゴレリッチ** ◇諫山隆美 1

巻頭エッセイ
『のだめカンタービレ』 ◇中村絃子 2

ピアニスト・アナリーゼ
レ・プレール ◇岡地まゆみ 4

わたしのお気に入り **江尻南美** ◇岡地まゆみ 6

ショパンは悲しそう、ポーランドは暗い!? ◇佐野真澄 8

トピックス

没後150年! **カール・チェルニー** ◇岳本恭治 10

さようなら、ヤマハホール ◇井村裕二 26

わはは先生 インタビュー ◇岡地まゆみ 28

いよいよ春休み! 家族で音楽を楽しもう ◇江崎光世 32

ポゴレリッチ ピアノ・マスタークラス ◇野平多美 81

「キッチンピアノ」体験記 ◇アブデル=ラーマン・エル=バシヤ 84

スイッチピ!あの コンサート ◇友部栄樹 巻末13

特別企画

『のだめ』に学ぶ『のだめ』を活かす 75

対談 大澤徹訓×井坂一仁◇荒木淑子
 『のだめ』効果◇平岡あや子、丹羽みどり

批評

演奏会批評 ◇雨宮さくら/峯崎邦雄/石川哲郎/大久保 賢/
 小倉多美子/河原 亨/柴田龍一/白石知雄/時 幹雄/
 中原昭哉/野平多美/原 明美/伴 玲児/道下京子 98

連載エッセイ

ピアニストを魅了! ◇木之下 晃 18

小川典子@ロンドンメール ◇小川典子 20

毎日が玉手箱 ◇仲道郁代 40

もっとピアノと仲良くなるための特別講座 ◇小原 孝 88

ようこそピアノランドへ ◇樹原涼子 90

大人のピアノレッスン解決塾 ◇千代田明子 93

今月のアーティスト

表紙の人 **久石 譲** ◇青澤隆明 巻末1

ピアニスト・インタビュー
ゲルハルト・オピッツ ◇真嶋雄大 14

頼近美津子の音楽教育etc.トーク
宮川彬良 ◇岡地まゆみ 22

今月のプレ・トーク **井阪絃** / **福田成康** ◇堀江昭朗 34

ムジカザスポットライト
アレクセイ・ゴルラッチ / **倉澤華** /
橋本響 / **田口千晴** ◇堀江昭朗 36

チケット発売情報 **注目のピアニスト** ◇堀江昭朗 38

イ・ヒアと師、母 ◇木村 理 86

ピアニストは指先で考える ◇青柳いづみこ 94

名曲ディスク・セレクション ◇下田幸二 96

生徒と行きたい全国イベントめぐり ◇岡地まゆみ 97

ムジカ・コラムワールド ◇伊熊よし子、太田直美、山本美芽、川田朔也 巻末28

invisible touch~ピアノのある風景 ◇片桐卓也 巻末39

連載講座

解説付楽譜 ショパン:ノクターン第18番 ◇横山幸雄 巻末2

もっと知りたい! バルトーク ◇パップ晶子 巻末8

譜にや譜にやゆうえんち ◇春畑セロリ 巻末14

わはは先生のレッスン室 ◇植田恵理子 巻末16

ピアニストの手・パートII ◇酒井直隆 巻末18

情報

演奏会/セミナー/ピアノコンクール&オーディション 巻末20

NEW DISCS ◇百瀬 喬 / CD新譜 ◇芳岡正樹 / 楽譜レビュー
 ◇山本美芽 / BOOK ◇山田治生 / 新刊楽譜&書籍 巻末30

News&Events 巻末34

音楽療法ニュース ◇芹澤一美 巻末40

ムジカノヴァ2007年3月号第38巻第3号(通巻433号)
 表紙写真(久石 譲):武藤 章
 写真:岡本 央、木之下 晃、満田 聡
 表紙&カラーデザイン:本永恵子、古屋順子
 グラビア、本文デザイン:杉井孝則、Flags、岡川拓郎、おたまじゃくし
 楽譜浄書:スタイルノート
 編集スタッフ:岡地まゆみ、海老根美保、友部栄樹
 特集編集:古川 亨/情報館編集:木香舎

没後150年! カール・チェルニー より
「がんばれ! ピアノの先生」

岳本恭治
 (日本J.N.フンメル協会会長/
 ピアニスト)

ベートーヴェン先生に教わった大切な練習は、「音階練習」。僕は29歳のころ、8歳のリストにレッスンしてただけど、もちろん、音階はみっちり教えたさ。練習は片手ずつゆっくりにね。そうそう、リストも『チェルニー30番』のような練習曲を勉強したんだよ。彼は「尊敬と感謝と友情をもって」と書いて、彼の作品『超絶技巧練習曲』を僕に献上してくれたんだ。「巨匠リストも『チェルニー30番』を勉強したんだ!」と思いつつ練習に励むよう、生徒さんにも伝えてくださいな。

皆さんから、僕は「いじわるな練習曲作曲家」と言われているって、ホント? でも僕は、協奏曲、ソナタ、変奏曲、無言歌、バガテルも書いているし、連弾や2台のピアノのための作品だってたくさんある。もっとレッスンや発表会で弾いてほしいな。

2台といえば、1829年、僕が38歳のとき、19歳のショパンとウィーンでデュオをしたときは、楽しかったなあ。

僕の書斎は、「練習曲製造工場」なんて言われてた。部屋の中央にある丸い机に五線紙をぐるりと並べ、1枚書き終えたら、インクが乾くまで次の五線紙に別の練習曲を書き、また1枚書き終えたら、隣の五線紙に別の練習曲を書き……って作曲していったんだ。みんなに技術練習を合理的にやってもらいたい一心だった。ちなみに、僕は猫が大好きで、たくさん飼ってたんだよ。



Carl Czerny
 1791年2月21日(ウィーン) — 1857年7月15日(ウィーン)



僕の練習曲は、タッチが軽くて繊細な音のウィーン式ピアノ(ほぼ現代のピアノの1/3の重さと鍵盤の深さ)のために書かれている。ベートーヴェンも愛用したピアノだよ。だから、僕が楽譜に書いた速度記号で弾かせようなんて、それは無茶な話さ! そんなことしたら、チェルニー嫌いがますます増えちゃうよ。適度な速さで、軽く、強弱を守って弾かせてほしい。そうすれば、きれいなメロディーが浮かび上がってくるからね!!

僕は、15歳から45歳まで、ほぼ毎日、午前8時から午後8時まで、12人のレッスンをしていたんだ。ウィーンの高貴な貴族と裕福な市民に教えていたから、収入は多かったけど、ストレスで健康を害することも多々あった。ピアノの先生方も苦勞が多いと思うけど、僕は先輩として、皆さんにエールを送りたい。僕の練習曲が楽しくなるように教えてくださいな。がんばれ!